2006 年度 小委員会活動成果報告

（2007 年 2 月 15 日作成）

小委員会名	比較居住文化小委員会	**主 査 名**：井上えり子 **就任年月**：2006 年 4 月
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	建築計画本委員会	**委員長名**：布野修司
設 置 期 間	2004 年 4 月 ～ 2008 年 3 月	
設 置 目 的 **各年度活動計画** **（箇条書き）**	・海外居住文化を扱った研究事例の整理と集積。 １．研究者相互の研究交流の場の確保とネットワークづくり。 ２．フィールドワークを教育に活かす方法について検討。 ３．住まいの原型を探り、地域に根ざしたデザインの考察。 ４．フィールドワークの方法・技術についての情報の集積。フィールドワークをおこなうためのマニュアルの作成。	
委員構成 **（委員名（所属））**	**委員公募の有無**：無 足立崇（大阪産業大学）、乾尚彦（学習院女子大学）、井上えり子（京都女子大学）、岡田知子（西日本工業大学）、角本邦久（関東職業能力開発大学校）、菊地成朋（九州大学）、栗原伸治（日本大学）、清水郁郎（大同工業大学）、田上健一（九州大学）、月舘敏栄（八戸工業大学）、永瀬克己（法政大学）、橋本憲一郎（東京大学生産技術研究所）、畑聰一（芝浦工業大学）、藤井明（東京大学生産技術研究所）、山本直彦（滋賀県立大学）	
設置 WG **（WG 名：目的）**		
2006 **年度予算**	135,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：da.gwc.gakushuin.ac.jp/hc/

項 目	**自己評価**
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 **（シンポジウム資料等は除く）**	
講習会	
催し物 **（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）**	１．「参加型調査法によるバングラデッシュの農村調査」 参加者数 12 名 資料（1）「集落と生活空間の概要」田上健一（九州大学） （2）「参加型調査法と調査ツールについて」谷正和（九州大学） ２．「周縁における居住文化の動態：ラオスを事例にかんがえる」 資料（1）「移民と居住文化」畑聰一（芝浦工業大学） （2）「国家と国境：ラオス北部のタイ・ルー社会からの報告」清水郁郎（大同工業大学） （3）「南部のカントゥを取り巻く政治空間」西本太（総合地球環境学研究所） ３．「アジアのヴァナキュラーな住まいとその温熱環境」 資料（1）「バリ島の生活と住まいの意味」山本直彦（滋賀県立大学） （2）「バリ島の基壇を持った住宅の温熱環境」宇野朋子（東京文化財研究所） （3）「黄土高原の生活と住まいの意味」栗原伸治（日本大学） （4）「ヤオトンをはじめ地下住居の温熱環境」出口清孝（法政大学） 以上３回は単独開催。 ４．「居住地のイデアの形成／居住地の計画・形成の原形」都市計画委員会都市形成・計画史小委員会主催シンポジウムに共催の形で参加。

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 **（当初の活動計画と得られた成果との関係）**	1．小フォーラムや拡大小委員会の開催を通じて、研究事例の集積やネットワークづくりについてはある程度達成できた。 2．フィールドワークマニュアルの作成については現在進行中である。
委員会活動の問題点・課題	1．小フォーラムや拡大小委員会の企画が活動の中心となり、フィールドワークマニュアル作成に関わる作業が遅れている。 2．小フォーラムを開催し赤字を出した。そのため開催形式・企画内容・広報について見直す必要があった。

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。